

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690100936		
法人名	株式会社 ビレッジ・フィールド		
事業所名	グループホーム「ふる里の風」		
所在地	富山県富山市新庄町2-9-43		
自己評価作成日	令和4年4月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kensosaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=1690100936-C
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス、感染症対策のため、家族や地域を含め外部との関りが持てず、手探りの状態での対応となった。家族と会えない、出かけられないなど、それまでの日常から大きく異なる生活を強いられる中、気持ちに寄り添い、落ち着いて過ごして頂けるように対応をおこなった。特に接遇面を強化し、安心できる環境を整えた。
 家族様とは、テレビ電話を活用し、お互い顔を見ながら会話できる環境を整えた。外にも出ることが出来ないため、ストレスが溜まらないよう、施設内でのレクリエーションの充実に力をいれた。また、筋力低下も危惧されるため、理学療法士と連携しながら、運動やストレッチ等も充実させ、身体機能が維持できるように努めた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の為、自己評価のみ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示。 日々のミーティングに関して理念を念頭に置き話し合い。業務改善を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス、感染症対策のため外部交流なし。地域行事也未開催。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス、感染症対策のため外部交流なし。地域行事也未開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、会議未開催。活動報告を取りまとめた書面開催、また質問等についてアンケート用紙を同封し対応をおこなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス、感染症対策のため介護相談員等の受け入れ未実施。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定と共に、身体拘束廃止に関する指針を事務所に設置。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止研修を年二回(年間行事に含まれている)実施。 また、2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や日常生活自立支援事業に関して積極的に学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は適時、疑問点が無いかご家族様に確認して、その都度説明している。新型コロナウイルス、感染症対策のため、面会等は未実施となっている。理由を説明し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とはメールや電話、FAXを活用して、気軽にご意見等を伝えてもらえるように対応をおこなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員との面談により、職員の意見や思いを直接聞く機会を設けている。 また、中心職員と2ヶ月に1回ミーティング実施し、業務や利用者様対応等の改善を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者ミーティングの中で、職員の勤務状況を報告している。また、経営者と各職員との面談の場もある。やりがいを持てるように、常勤者ミーティングの中で目標を持って業務に取り組むように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、オンラインにて研修開催をおこなっている。その中で疑問点や不明点については個別に対応をおこなっている。OJTに関して、入社した職員には、日替わりにはなるがコンダクターをつけ、習熟表を用いて進捗状況を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者から管理者に、同業者との交流会や勉強会、Zoom等の案内がある。 また管理者自身も、他事業所参加の勉強会や研修にオンラインで参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、本人面談も簡略化。入居後の職員ミーティングにて困りごとの検討・把握、対策の実施、振り返りを徹底し、安心できる環境・関係性の構築に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため施設見学は未実施となっている。居室間取りの写真や案内文等をできるだけ詳細に記載し、イメージ等の不一致をなくすように取り組みをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは制度上、他介護保険適用サービスが使用できない。必要に応じて訪問診療、訪問歯科のサービスを提案、連携を図って支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や洗濯物畳み、お盆拭きなどできる部分に関しては一緒におこなっている。製作レクも一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、対面ではなく玄関ガラス越しでの面会となっている。また、家族と顔が見える会話ができるようテレビ電話等を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策、面会制限のため、馴染みの人との関係が希薄になる。そのため、身近に感じていただけるよう写真や手紙を居室内に飾っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮しながら、職員で話し合い、座席などを検討している。上手いかなかった場合は、再検討をおこなう。できるだけ全員が関われるようなレクリーションを企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院の際は、転院先に情報提供している。退去(逝去)された入居者様の家族様より、毎年桜をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが可能な方に関しては、本人様に聞き取りを行っている。困難な場合は、ミーティングなどで日々のご様子や何故そうした言動となったのか背景をを話し合い本人様の思いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画書作成時に、生活歴や介護、医療サービス利用の経過に関しては、ご家族様、前相談員に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報、申し送り、スキンケアノート、訪問診療結果報告書などを活用し把握、情報共有をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で話し合い課題として挙げたものに関しては、ご家族様、主治医、理学療法士と相談して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報、申し送り、スキンケアノート、訪問診療結果報告書などを活用し把握、情報共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽に合わせての散歩、理学療法士との連携(生活機能向上連携)、ユニット合同のレクリエーション、レクの個別対応など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、地域の行事・イベントが未開催となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、相談、往診等体調面の相談、対応をしていただいている。また、新型コロナウイルスに罹患した際は、訪問診療医に連絡・相談、医師の指示のもと適切な対応をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に関して、介護職、看護師、管理者、介護支援相談員で共有できるように、訪問診療等の結果や現在の状況は連絡帳を活用して、情報共有をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院に基本情報、アセスメント表、薬情、入院に至る経緯(体調の経過)など送らせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療連携体制、重度化した場合における対応にかかわる指針を家族様に説明、同意を得ている。また必要時、医師主導の元、家族様、施設職員で話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化されている。また、体調面に関して、確認するポイントは日々の申し送りで伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害時の訓練に関して、定期的実施。またマニュアルの見直し。備蓄品の消費期限の確認をおこなっている。火事の際は、近隣の方の誘導依頼を町内会で取り上げていただくようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の表札は隠れるように配慮。また下駄箱は部屋番号のみ表記。※居室の位置がわからない方は、紙花の掲示などで工夫している。 言葉遣いや挨拶、礼儀、マナーなど、不快に思われないように接遇研修をおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のご希望に沿うように、基本的には自己決定を優先している。 ※安全性は配慮させていただいたうえで、ご本人様の希望に添えない場合があり、家族様にも説明をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、基本的にはご本人様のペースを優先している。 ※健康面を配慮し、本人様に目的を説明の上、静養など優先させていただく場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に自己決定を優先しているが、本人様が自己決定できない場合や、健康面を考慮して職員が助言させていただくことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在業者に食事は依頼。食事形態など可能な限り、ご本人様の趣向に合わせるようにしている。 大きなレクリエーションやおやつレクでは、入居者様に手伝っていただく。食事の下膳は、可能な方をお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談・指示のもと、食事量やカロリーを制限する場合がある。その逆もあり。食事形態など、主治医と連携し決定している。その際は必ず家族様に説明、了承を得る。また、必要時、医師の指示の上で、ご家族様に栄養補助食品の持参を依頼する場合がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝、昼、夕食後実施。※基本的に自立の方は職員見守りの元、ご自分で口腔ケアいただいている。必要に応じて、職員で介助、補助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行くことが困難な方に関しては、職員にて定時声掛け、誘導を実施。その際は、これまでの排泄履歴より、声掛けタイミングを決定。また失禁予防の体操を継続している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔の確認を毎朝行っている。水分補給、食事量の確認、歩行練習、体操などの運動の促しで便秘予防を行っている。必要時、主治医と相談して頓服の下剤の処方など検討実施。処方時は家族様に連絡を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置・時間の関係で、お一人ずつの希望は添えていない聞けていない。体調、ご希望によって、可能な場合は入浴日、時間を変更するなどの対応をしている。ゆず湯など季節が感じられるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は生活習慣に合わせて対応させていただいている。また、健康面考慮して、極端な昼夜逆転にならないように、日中の運動やレクリエーション参加の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療結果にて、処方の内容、理由を職員に伝達。処方変更後は体調の変化などの確認を行っている。家族様にも説明を行っている。また、提携薬局様より服薬方法などに関して助言いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやコーヒーの準備など役割を持っていただいている。嗜好品に関しては、ご家族様に依頼をおこなうこともある。感染症対策のため、外出レク、外部ボランティアなどが難しく、施設内で楽しんで頂けるよう企画立案・実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス、感染症対策の為、外出レクは未実施。また家族様による外出も制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は紛失などのトラブルにつながるため、預かり金として事務所で鍵付きで管理している。 出納帳の記載(支出内容、残高など)、支出の際は都度家族様に報告をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様にかかってきた電話に関しては取次をさせていただいている。Zoomやテレビ電話も活用している。また、家族や親類から年賀状も届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、間接照明を使用して、中間色で安心できる環境を演出している。 気温や湿度管理をおこない、必要時に冷暖房や加湿器を作動している。感染症対策の為、定時に換気をおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外でソファを設けており、並んでソファに座って会話をしたり、一人で過ごされるなど、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設見学が出来ないため、居室の間取り・写真、書面をお渡ししている。家具等のサイズ違いはない。家具等はできる限り、使い慣れたものをご持参、写真や雑貨など思い入れのあるものを持参していただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、浴室、居室の導線に手すりを設置。また転倒リスクになるものを可能な限りよける。共用空間にある、テーブル等の角には緩衝材を設置。居室の家具の配置などは、安全性を考慮して、職員で検討。変更する際はご家族様に相談している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示。 日々のミーティングに関して理念を念頭に置き話し合い。業務改善を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス、感染症対策のため外部交流なし。地域行事也未開催。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス、感染症対策のため外部交流なし。地域行事也未開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、会議未開催。活動報告を取りまとめた書面開催、また質問等についてアンケート用紙を同封し対応をおこなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス、感染症対策のため介護相談員等の受け入れ未実施。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定と共に、身体拘束廃止に関する指針を事務所に設置。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止研修を年二回(年間行事に含まれている)実施。 また、2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や日常生活自立支援事業に関して積極的に学ぶ機会が設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は適時、疑問点が無いかご家族様に確認して、その都度説明している。新型コロナウイルス、感染症対策のため、面会等は未実施となっている。理由を説明し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とはメールや電話、FAXを活用して、気軽にご意見等を伝えてもらえるように対応をおこなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員との面談により、職員の意見や思いを直接聞く機会を設けている。 また、中心職員と2ヶ月に1回ミーティング実施し、業務や利用者様対応等の改善を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者ミーティングの中で、職員の勤務状況を報告している。また、経営者と各職員との面談の場もある。やりがいを持てるように、常勤者ミーティングの中で目標を持って業務に取り組むように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、オンラインにて研修開催をおこなっている。その中で疑問点や不明点については個別に対応をおこなっている。OJTに関して、入社した職員には、日替わりにはなるがコンダクターをつけ、習熟表を用いて進捗状況を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者から管理者に、同業者との交流会や勉強会、Zoom等の案内がある。 また管理者自身も、他事業所参加の勉強会や研修にオンラインで参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、本人面談も簡略化。入居後の職員ミーティングにて困りごとの検討・把握、対策の実施、振り返りを徹底し、安心できる環境・関係性の構築に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルス、感染症対策のため施設見学は未実施となっている。居室間取りの写真や案内文等をできるだけ詳細に記載し、イメージ等の不一致をなくすように取り組みをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは制度上、他介護保険適用サービスが使用できない。必要に応じて訪問診療、訪問歯科のサービスを提案、連携を図って支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や洗濯物畳み、お盆拭きなどできる部分に関しては一緒におこなっている。製作レクも一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス、感染症対策のため、対面ではなく玄関ガラス越しでの面会となっている。また、家族と顔が見える会話ができるようテレビ電話等を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策、面会制限のため、馴染みの人との関係が希薄になる。そのため、身近に感じていただけるよう写真や手紙を居室内に飾っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮しながら、職員で話し合い、座席などを検討している。上手いかなかった場合は、再検討をおこなう。できるだけ全員が関われるようなレクリーションを企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院の際は、転院先に情報提供している。退去(逝去)された入居者様の家族様より、毎年桜をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが可能な方に関しては、本人様に聞き取りを行っている。困難な場合は、ミーティングなどで日々のご様子や何故そうした言動となったのか背景をを話し合い本人様の思いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画書作成時に、生活歴や介護、医療サービス利用の経過に関しては、ご家族様、前相談員に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報、申し送り、スキンケアノート、訪問診療結果報告書などを活用し把握、情報共有をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で話し合い課題として挙げたものに関しては、ご家族様、主治医、理学療法士と相談して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報、申し送り、スキンケアノート、訪問診療結果報告書などを活用し把握、情報共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽に合わせての散歩、理学療法士との連携(生活機能向上連携)、ユニット合同のレクリエーション、レクの個別対応など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、地域の行事・イベントが未開催となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、相談、往診等体調面の相談、対応をしていただいている。また、新型コロナウイルスに罹患した際は、訪問診療医に連絡・相談、医師の指示のもと適切な対応をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に関して、介護職、看護師、管理者、介護支援相談員で共有できるように、訪問診療等の結果や現在の状況は連絡帳を活用して、情報共有をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院に基本情報、アセスメント表、薬情、入院に至る経緯(体調の経過)など送らせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療連携体制、重度化した場合における対応にかかわる指針を家族様に説明、同意を得ている。また必要時、医師主導の元、家族様、施設職員で話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化されている。また、体調面に関して、確認するポイントは日々の申し送りで伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害時の訓練に関して、定期的実施。またマニュアルの見直し。備蓄品の消費期限の確認をおこなっている。火事の際は、近隣の方の誘導依頼を町内会で取り上げていただくようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の表札は隠れるように配慮。また下駄箱は部屋番号のみ表記。※居室の位置がわからない方は、紙花の掲示などで工夫している。 言葉遣いや挨拶、礼儀、マナーなど、不快に思われないように接遇研修をおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のご希望に沿うように、基本的には自己決定を優先している。 ※安全性は配慮させていただいたうえで、ご本人様の希望に添えない場合があり、家族様にも説明をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、基本的にはご本人様のペースを優先している。 ※健康面を配慮し、本人様に目的を説明の上、静養など優先させていただく場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に自己決定を優先しているが、本人様が自己決定できない場合や、健康面を考慮して職員が助言させていただくことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在業者に食事は依頼。食事形態など可能な限り、ご本人様の趣向に合わせるようにしている。 大きなレクリエーションやおやつレクでは、入居者様に手伝っていただく。食事の下膳は、可能な方をお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談・指示のもと、食事量やカロリーを制限する場合がある。その逆もあり。食事形態など、主治医と連携し決定している。その際は必ず家族様に説明、了承を得る。また、必要時、医師の指示の上で、ご家族様に栄養補助食品の持参を依頼する場合がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝、昼、夕食後実施。※基本的に自立の方は職員見守りの元、ご自分で口腔ケアいただいている。必要に応じて、職員で介助、補助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行くことが困難な方に関しては、職員にて定時声掛け、誘導を実施。その際は、これまでの排泄履歴より、声掛けタイミングを決定。また失禁予防の体操を継続している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔の確認を毎朝行っている。水分補給、食事量の確認、歩行練習、体操などの運動の促しで便秘予防を行っている。必要時、主治医と相談して頓服の下剤の処方など検討実施。処方時は家族様に連絡を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置・時間の関係で、お一人ずつの希望は添えていない聞けていない。体調、ご希望によって、可能な場合は入浴日、時間を変更するなどの対応をしている。ゆず湯など季節が感じられるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は生活習慣に合わせて対応させていただいている。また、健康面考慮して、極端な昼夜逆転にならないように、日中の運動やレクリエーション参加の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療結果にて、処方の内容、理由を職員に伝達。処方変更後は体調の変化などの確認を行っている。家族様にも説明を行っている。また、提携薬局様より服薬方法などに関して助言いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやコーヒーの準備など役割を持っていただいている。嗜好品に関しては、ご家族様に依頼をおこなうこともある。感染症対策のため、外出レク、外部ボランティアなどが難しく、施設内で楽しんで頂けるよう企画立案・実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス、感染症対策の為、外出レクは未実施。また家族様による外出も制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は紛失などのトラブルにつながるため、預かり金として事務所で鍵付きで管理している。 出納帳の記載(支出内容、残高など)、支出の際は都度家族様に報告をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様にかかってきた電話に関しては取次をさせていただいている。Zoomやテレビ電話も活用している。また、家族や親類から年賀状も届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、間接照明を使用して、中間色で安心できる環境を演出している。 気温や湿度管理をおこない、必要時に冷暖房や加湿器を作動している。感染症対策の為、定時に換気をおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外でソファを設けており、並んでソファに座って会話をしたり、一人で過ごされるなど、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設見学が出来ないため、居室の間取り・写真、書面をお渡ししている。家具等のサイズ違いはない。家具等はできる限り、使い慣れたものをご持参、写真や雑貨など思い入れのあるものを持参していただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、浴室、居室の導線に手すりを設置。また転倒リスクになるものを可能な限りよける。共用空間にある、テーブル等の角には緩衝材を設置。居室の家具の配置などは、安全性を考慮して、職員で検討。変更する際はご家族様に相談している。		